

2021 年 8 月 6 日（金）～8 月 7 日（土） 木曽駒ヶ岳 (2956m) & 宝剣岳 (2931m)

中央アルプスの最高峰 木曽駒ヶ岳には、近くは2009年（平成11年）10月と2014年（平成26年）7月に登っています。しかし、どちらも天気には恵まれなかったようです。

今回は比較的天候の安定する8月上旬に計画しました。青空の下で広大な千畳敷を楽しむとともに、宝剣岳と木曽駒両方の頂に立ちたいと思っています。クマさん会メンバーも、かつて木曽駒に登った頃からするといささか年も重ねましたので、出来るだけのんびり歩くプランにしました。

初日は駒ヶ岳ロープウェイで千畳敷駅まで上がったあと、花を愛でながらゆっくりと遊歩道を経由して宝剣山荘まで行きます。その後、サブザックとヘルメット必須で宝剣岳に登ります。翌日は、宝剣山荘から中岳を経て木曽駒の頂を目指す予定です。

今回の参加者は、堀さん、池戸さん、根岸さん、布目さん、岡部さん、そして吉松の6人です。

レポート：吉松

初日：8月6日（金曜日） 快晴

池戸、根岸、布目、岡部、吉松の5人は特急あずさ1号を利用して、飯田線駒ヶ根駅に向った。

堀さんだけは、どのような心境の変化があったのか、全路線を各駅停車利用で駒ヶ根駅へ向うことになった。



特急あずさ1号

布目さんは始発駅の新宿から、岡部さんは立川駅で乗車

池戸さん、根岸さん、吉松の3人は八王子駅から乗車

各駅停車でやってくる堀さんは、他の5人よりは1時間ほど余分に電車で揺られてやってくる。あずさ1号乗車の5人とは、岡谷駅で合流だ。

本人は「久しぶりに各駅停車ならではの良さを満喫出来た！」と甚くご満悦で、色々写真に収めていた。



勝沼ぶどう郷駅辺りからの富士山



日野春駅から望む甲斐駒ヶ岳



素敵な駅名 「すずらんの里」 駅



上諏訪駅構内の「足湯」

*こんなことがありました・・・その1

あずさ1号乗車組の5人は、上諏訪駅で下車して同じホームから出る飯田線豊橋行に乗り換えることになっていた。ところが・・・同じ特急に乗っていたはずの布目さん、岡部さんが上諏訪駅で飯田線に乗り換えてこないのです。

2人は“ぺちゃくちゃ”＝失礼！＝“あれこれ”と話をするのに夢中で、上諏訪駅で乗り換えるのを失念して仕舞ったのだそうだ。 2人は大いに慌てたが、岡谷駅でも乗り換えられることが分り一安心。

兎も角、吉松に連絡を入れようとしたが、全く繋がらない（実は、スマホをザックに仕舞い込んであった）。恥を忍んで（？）クマさん会メンバー24人の目に曝されることになるラインで、乗り過ぎしの事態を報告。ラインをチェックした根岸さん経由で、女性2人の状況が分かった次第です。

・・・もともと、予定通り乗り換えた男3人も、女性2人が乗ってこないのに気づいてはいた。岡谷駅乗り換えのつもりだろうと、左程は心配していなかったのだが・・・

ともあれ岡谷駅で6人全員が揃って、飯田線に揺られて駒ヶ根駅に向うことになった。登山客風の乗客は少ないので、恐れていたバスやロープウェイの混雑や木曽駒での登降渋滞は免れそうな気がした。

飯田線は単線であるために、駅での列車すれ違いの為の停車時間が長く、段々こちらの気分ものんびりとしてきた。都会の喧噪から逃れてきたという実感が湧いてきた。（花は、線路沿いに咲いたノウゼンカズラ）





11時7分

駒ヶ根駅に到着（標高676m）



11時30分

中央アルプス観光伊那バスに乗り込んだ。
45分ほどバスに揺られて、駒ヶ岳ロープ
ウェイ山麓駅の「しらび平」へ

予想通り登山客は少なかった。



車中から撮った写真（←）に写っている、
とがった姿の山（中央少し左）が、本日登
る宝剣岳である。



12時15分 順調に「しらび平」到着
（標高1662m）

ハイシーズン中の駒ヶ岳ロープウェイは、運が悪ければ整理券が配られるほど混雑するという。
幸運にも今回はスムーズに乗ることが出来た。コロナ禍の影響で客足が落ちていることは間違いない。



12時30分出発のロープウェイ改札口

並んでいる乗客は少ない。



駒ヶ岳ロープウェイ

- ・全長 2334m
- ・高低差 950m（日本一）
- ・所用時間 7分



千畳敷駅と、併設されているホテル千畳敷（標高 2612m 日本一高所に建つホテル）が見えてきた。

気温19度

湿度48%

下界の猛暑と比べると天国だ！



12時40分

ホテル千畳敷の建物の陰で、昼食をとることにした。

（堀さん談：路上生活者か？）

*こんなこともありました・・・その2

堀さんに、どのような心境の変化があったのか？

堀さんは、「自分は年金生活者であるから」と言いながら特急を利用しないで全行程鈍行で駒ヶ根駅まで来た。
2000円ほど安くなったと誇っていた。

さて、昼食になって・・・

布目さん、岡部さん、池戸さん、根岸さん、吉松の5人は持参の弁当を食べた＝まずまず庶民的＝。

堀さん一人は千畳敷ホテルのレストランで、カツカレー（1500円也）を食べた。流石に上手かったらしい。
そうだったのか、運賃2000円を節約してカツカレーを食べたかったのか・・・。

（根岸さん目撃談：メニューを覗いたところ、一番高いものだったとのこと）

ところが、更によくよく堀さんの話を聞けば、昨日は奥さんと一緒にウナギを食べたそうだ。

今時、ウナギは高いぞ！！

鈍行列車で来たのは、節約に努めているということの、奥さんへの単なるアピールか？



12時15分

千畳敷の遊歩道へ向けて一旦下る。



すぐに、剣ヶ池に到着

剣ヶ池は小さな池だが、水の透明度が際立つ



剣ヶ池で、千畳敷カールをバックに集合写真
中央にそびえて見えるのが、本日登る宝剣岳



千畳敷標識前でも集合写真



暫くは、遊歩道をゆっくり散策



遊歩道や八丁坂で目にした沢山の高山植物



ヤマブキショウマ



シラネニンジン (?)



コウメバチソウ (?)



オトギリソウ



オトギリソウ



ヤマハハコ



エゾシオガマ



ウサギギク



ミヤマリンドウ



タカネツメクサ



ヨツバシオガマ



ナナカマド



トリカブト



ミヤマリンドウ



ムカゴトラノオ



バイケイソウ



チングルマ



コバイケイソウ



タカネスイバ



コオニユリ



チシマギキョウ



クロトウヒレン (つぼみ)



シナノキンバイ



ミヤマアキノキリンソウ

13時40分 遊歩道を後にして「八丁坂」に入った。少し上り勾配がきつくなる。
夏山シーズン中は混雑して登降に時間が掛かるそうだが、今回はその混雑からは免れた。
ここからは、「乗越浄土」を目指して約50分の頑張りだ。



「八丁坂」スタート地点の標識

「ここから先は登山の装備が必要です」
との注意書きがある。



14時30分 「乗越浄土」に到着



今日宿泊する宝剣山荘は目と鼻の先だ。



東に目を転ずれば、「和合山」が見える。
明日の朝、この頂の方向にご来光が望める。

予定通り、15時に宝剣山荘に到着して宿泊手を済ませた。

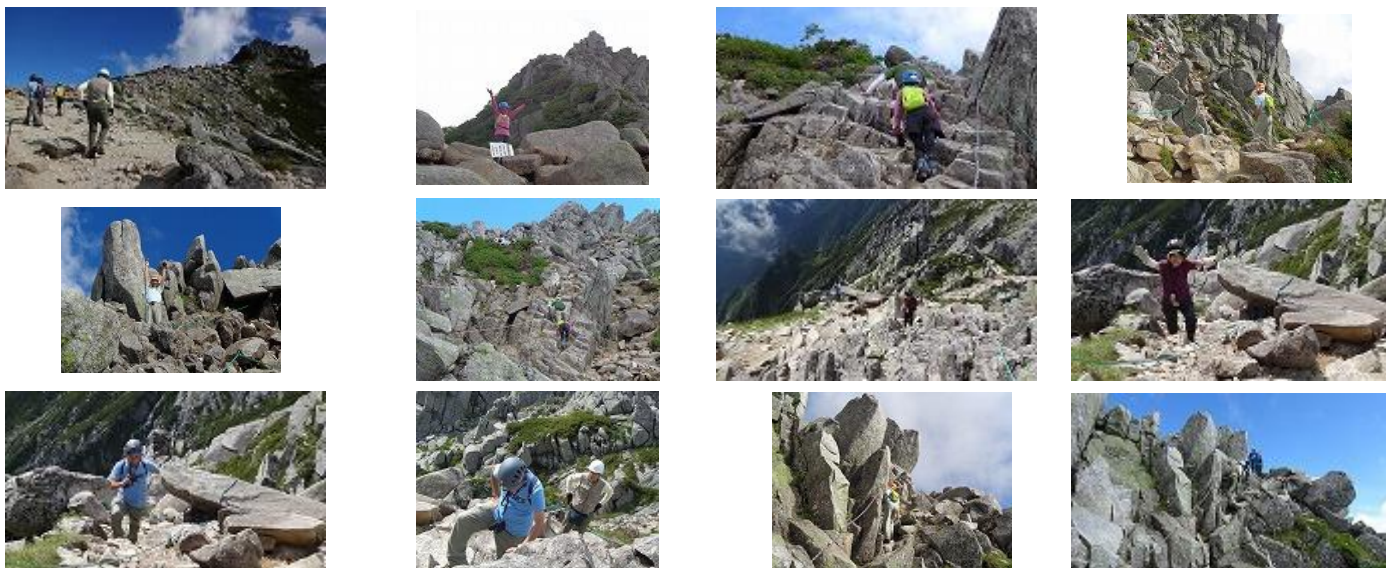
ザックを山荘に預けて、早速サブザックだけで宝剣岳に登ることにした。

滑落による遭難もある岩山なので、ヘルメットを装着し、万全の注意を払うことにした。



目指す宝剣岳

登山道が混み合っていないのが幸いだ。
頂に近くなると鎖場が続いている。
(写真右の岩は天狗岩)



15時35分

宝剣岳山頂（2931m）に立った。我々6人以外は誰も居ない。山頂をクマさん会で独占状態だ。小さな祠を背にして、歓喜の集合写真を撮った。



下りは足下が見にくいだけに、一層の用心を重ねた。





16時過ぎに全員無事に下山

今日の目的を果たすことが出来た。

宝剣山荘に戻った。

混むときには8人を詰め込む部屋を、我々に2部屋用意してくれていた。

男性4人、女性2人でそれぞれ使用することにした。



男性部屋

2段ベッドの上に根岸さんと吉松が占めて、下を堀さん、池戸さんが使用することになった。

下段は出入りが楽な一方で、高さが低い為に荷物整理の作業などには使い勝手が極めて悪いようだった。

荷物の整理が終わって玄関前に集まり、缶ビールや持参のお酒で軽く一献



泊まり客は2回に分けて夕食をとることになっていた。

我々はチェックインが早かったため、17時から夕食開始



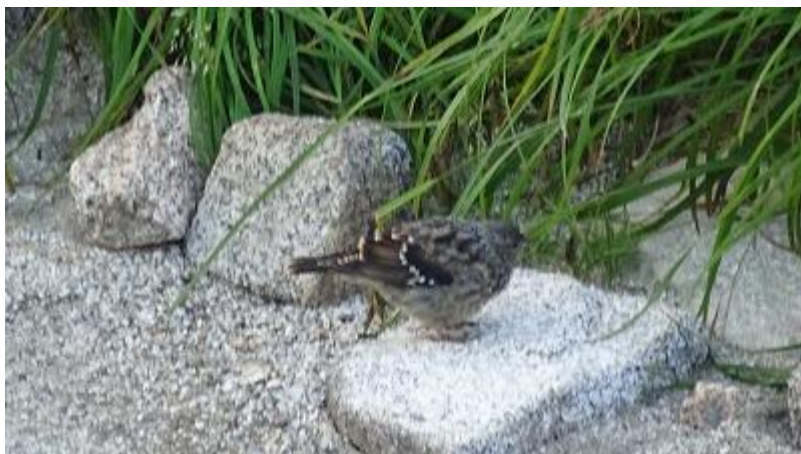
おかずは、ハンバーグ、ミートボールなど



缶ビール（600円）と堀さん、池戸さん
持参のお酒で、美味しく夕食をとった。

夕食後に山荘の外に出てはみたが、流石に寒かった。

人なつこいイワヒバリが我々に近づいてきたのが、なんとも可愛らしかった。



宝剣山荘の玄関前に一羽のイワヒバリが。

*こんなことまでありました・・・その3

山荘ではもはややることも無くなり、男性陣は早々と布団に潜りました。
疲れとお酒のほろ酔いもあって、深く静かな眠りに落ちていたのです。

と・・・突然ベッドが大きく揺れ、「スワ地震か！」 結構大きな揺れが襲いました。

しかし・・・地震ではありませんでした。2段ベッドの上で寝ていた体重のある根岸さんが、何かの用で起き出したのが原因でした。直下に寝ていた池戸さんは勿論ですが、向かいのベッドに寝ていた堀さん、吉松も揺れました。床やベッドが安普請だったのでしょう。

もっとも、池戸さんは「昨日は寝た気がしなかった」と言っていたので、余程怖かったのでしょうか？